

研究の基本構想および取組

1 総括主題について

(1)「生きる力」の育成から

今次教育改革は、「生きる力」を育成するために、完全学校週5日制の下で教育内容を厳選し、基礎的・基本的内容を確実に身に付けさせるとともに、一人一人の個性を生かす教育を行うことを目標に改訂された。「総合的な学習の時間」を設ける一方、教科についてはその学習内容を厳選し、基礎的・基本的な内容の確実な定着に重点を置くこととした。

いかに社会が変化しようとも、21世紀に生きる子どもたちにとって必要なものは、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、豊かな人間性であると改めて確認した。

(2)教育の地方分権化と学校裁量権の拡大から

平成10年10月、中教審は「今後の地方教育行政のあり方について」の答申を出し、教育の地方分権化と学校裁量権拡大の方向を示した。また、学力低下論の高まる中、文部科学省は、「学習指導要領は最低基準であり、それに何を上乘せするかは各学校で」との見解を公にした。教育課程の編成は従前以上に各学校の創意工夫に委ねられることとなる。

学校の教育課程編成は各学校が主体となって行うものであることはもちろんであるが、多様な情報や機能をもった教育センターが各学校をサポートしていく必要性が生まれてくる。当センターにおいても、川崎に生きる子どもの実態を把握し、教育の方向性を明らかにするとともに、川崎という都市を教育活動という視点から見直し、そこに内在する教育的資源やその活用方法等について研究を深めていくことが求められよう。

(3)総括主題の設定

「生きる力」の育成を根底に置きつつ、川崎らしい教育の創造を求めて、平成13年度に引き続き、研究の総括主題を次のように定めた。

川崎の特色が生きる教育の創造

子どもや市民の実態に即して、さらに地域やそこに住まう人々とのかかわりをも大切にしながら教育活動を進めていくことが、川崎の特色が生きることに繋がると考えた。

学校教育においては、

- 子どもたちの実態や地域性をとらえ、それを生かした教育活動を展開していくこと
- 学校と地域社会との連携を深めるという視点から、地域に根ざした教育活動を展開する。

社会教育においては、

- 市民のニーズをつかみ、生涯学習の基盤作りを進めること
- 社会教育施設の有機的な連携による市民サービスの向上を目指すとともに、学社融合の視点から、学校教育と社会教育の一体化を図ること

2 キーワードについて

「自ら学ぶ」「共に学ぶ」「学び続ける」

(1) 「自ら学ぶ」

まず、子どもたちに学ぶことの楽しさや喜びを取り戻すことを第一に考えたい。学びの楽しさや喜びは、自らが主体的な学習者となって学ぶとき、最もよく実感できると考える。

課題発見・追求の力を育成していくこと

課題解決のための情報活用能力を育成していくこと

学習と生活とを関連付けていくこと

(2) 「共に学ぶ」

学びを通して、自他を尊重する人権意識を育てるとともに、共生社会を実現するための礎を築いていきたい。

障害の有無にかかわらず、すべての人々が共に学び合う場を作り上げていくこと

個性を尊重する態度を育成するとともにコミュニケーション能力の育成を図っていくこと

大人と子ども、日本人と外国人など、多様な交流が行われるよう学びの場を広げていくこと

(3) 「学び続ける」

人は、生き続ける限り、あらゆる場で学び続ける存在である。そこで、学び続けようとする意思や態度を育成するとともにその方法を獲得させていきたい。

情報収集能力を育成するとともに多様な情報を提供できるシステムを構築すること

学校以外の学びの場を広げるとともに、その充実を図ること

学校不適應の子どもにも学びを保障するための方策を考えていくこと

子どもたちが大人になっても学び続ける力を育てていくこと

3 研究の組織と運営

各研究会議は、以下に示す4つの形態から構成され、研究を進めた。

各研究室の（研修）指導主事と研究(研修)主幹との研究会議

各学校(園)より派遣された長期研修員と研修員に（研修）指導主事を加えた研究会議

各学校、市内公立施設より派遣された研修員に（研修）指導主事を加えた研究会議

市内公立施設より派遣された研修員に当センター社会教育主事を加えた研究会議

研究の推進にあたっては、定期的に研究会議を開催するとともに、各学校（園）、各校種等の研究会や市内各関係機関と密接な連携を図ることを心がけてきた。各研究会議は、課題に合わせた検証授業等を実施し、それを積み重ねることで、より確実に裏付けのある研究をした。

（研究基本構想図参照）

4 研究の成果

研究の成果については、所内での中間報告、対外的な場での発表を行うことを通し、その都度研究の方向・方法などの検討を積み重ねてきた。（教育研究所連盟における発表一覧表参照）

そして、研究報告会（平成14年2月26日）を開催して、終結を目前にした調査・研究の報告をするとともに、市内外の多くの参会者からのご助言・ご意見をいただいた。その後、まとめの研究会議を経て、最終報告としての研究紀要をここに完成させた。

またインターネットにより全国に向けて研究の内容を発信し、広く教育現場の日常の研究活動に生かせるよう配慮した。

平成14年度 川崎市総合教育センター研究基本構想図
研究分野

研究体制

指導主事
研究

- (1) 教育課程編成のための研究〔教科における基礎学力の育成を目指して
共同研究校との研究（教育課程編成及び総合的な学習の時間の評価について）〕
- (2) 教育基本調査〔子どもの環境をより充実させるための生活実態調査〕

研究の総括主題

川崎の特色が生きる教育の創造

『自己学び』『共に学ぶ』『学び続ける』

教育課題研究 今日的な教育課題の対応に向けた実践的研究

- (1) 学校経営〔学校改善に生かす学校評価〕
- (2) 国際理解教育〔他文化共生の社会をめざした国際理解教育〕
- (3) 児童生徒指導〔子どもの権利学習を通し、セルフエスティームを高める研究〕
- (4) 健康教育〔自ら気づき実践する力を育てる健康教育〕
- (5) 高校教育〔自ら考え、表現する力を育てる指導と評価の研究〕

教科教育研究 学習指導要領の実施における課題を踏まえた実践的研究

- (1) 国語科〔国語科の学習に生きる自己評価について〕
- (2) 社会科〔資料活用能力を育て、考える力を培う社会科の学習〕
- (3) 算数・数学科〔自分の考えを表現することを大切に算数・数学科の授業改善〕
- (4) 理科〔子どもが自ら考えを構築する理科学習〕
- (5) 生活科〔「自分自身への気づきの深まり」にせまる評価（見取り）の在り方〕
- (6) 音楽科〔すすんで聴く子どもの育成をめざして〕
- (7) 図画工作・美術科〔子どもの思いを生かす表現活動をめざして〕
- (8) 体育・保健体育科〔運動の有能感を高め、主体的に学習する子どもを目指して〕
- (9) 家庭、技術・家庭科〔生活に生かす力を育てる 家庭、技術・家庭科の学習〕
- (10) 英語科〔リーディング活動に視点をあてた英語の基礎・基本〕
- (11) 道徳〔児童生徒が道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間（2）〕
- (12) 特別活動〔社会性を育む学級活動の在り方〕
- (13) 小学校における外国語活動〔教科学習内容との関連を図った英語活動〕
- (14) 郷土資料編集〔郷土資料の作成と活用に関する研究〕
- (15) 専門研修員による1年研究〔表現力育成のための1分間スピーチ〕

生涯学習研究 今日的な課題を踏まえた、市民や子どもの学習支援を目指す研究

- (1) 社会教育〔学校が生きる 地域が生きる 施設が生きる〕
- (2) 社会教育〔社会教育施設における子ども施策の拡充について〕

情報教育研究 川崎市教育情報ネットワーク（ケインズネット）を活用した教育の推進に関する研究

- (1) 情報教育〔川崎市教育情報ネットワーク（ケインズネット）を活用した教育の推進に関する研究〕
- (2) 映像制作〔教材化にむけてのデジタル動画コンテンツの開発研究〕

教育相談研究 学校における教育相談の充実を目指す実践的な研究

- (1) 学校教育相談〔授業における教育相談的かわり〕
- (2) カウンセラー研修〔学校における教育相談の在り方〕
- (3) カウンセラー研修〔学級に生かす教育相談〕
- (4) グループアプローチ〔不登校児童生徒に対するグループアプローチに関する実践研究〕

障害児教育研究 特別支援教育の在り方を探る研究

- (1) 通常の学級の特別支援教育〔通常の学級における特別な教育ニーズのある児童生徒に対する支援〕
- (2) 障害児教育カリキュラム支援〔障害児教育カリキュラム支援の在り方〕

幼児教育研究 0歳児から5歳児の発達を見通した幼児教育の在り方の研究

- (1) 幼児教育〔3年保育の教育課程編成に向けての基礎研究〕

外部研究機関との研究

教育課題研究室	・指定都市共同研究 ・人権尊重教育
情報教育研究室	・コンピュータ教育利用共同研究 ・全教連共同研究
教育相談センター	・不登校児童生徒の体験活動実践研究
障害児教育研究室	・学習障害児（LD）に対する指導方法等に関する実践研究

長期研修員と研修員
指導主事と研修員
研修員
指導主事
社会教育主事と研修員
[黒塗り]次年度終結研究